

What is paradigm ?

パラダイム

T・クーンの『科学革命の構造』でまさに革命を起こした「パラダイム」という考え方。もちろん、科学分野だけでなく、他分野にも適用可能です。
パラダイムを知ると、論文に役立つだけでなく、就活や日常生活でも、自分の思考の癖、無意識に持っているフィルターを知ることができて、ちょっと世界が楽しくなる気がします。

発行：2023.07
和歌山大学図書館
作成：ラーニング・アドバイザー
(観光学研究科)

1. はじめに/Introduction

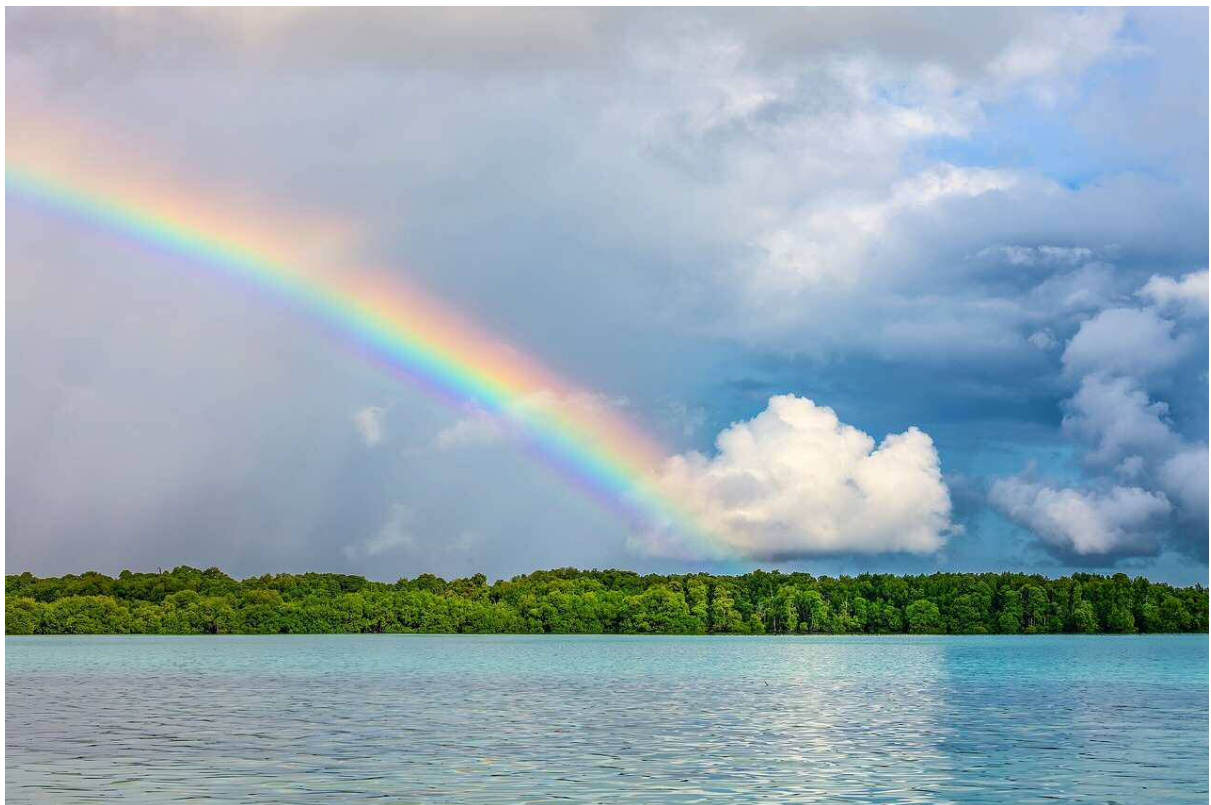
卒論を書くときに、指導教員となんとなく話が噛み合わない。友達の正しいと言っていることと、私の正しいと思っていることがちょっと違う気がする。そんな経験はありませんか？また、研究は客観性が大事だと見聞きしたことがありませんか？しかし、「科学＝客観的＝正」は、本当にそうでしょうか。もしかすると、それらの悩みは「パラダイム」という考え方を知ることによって、思考が開けてくるかもしれません。

1-1. どんな思考のフィルターを持っている？

★自分の考えていること、思考の癖は、案外自分では気づきにくいものです。まず、簡単なテストをしてみましょう。

Q.虹の色は七色だと説明してください。

こう聞かれたときに、なんと説明したくなりますか？便宜的に、大まかな2つのパターンで考えてみましょう。



①まず「粒子や光の仕組みについて」の説明をはじめ

②「虹は国によって何色あるかの認識が違う」という説明からはじめる

①を選んだ方は、**真実はいつもひとつで、客観的に説明できる**と考えている。

②を選んだ方は、**真実は人によって異なるし、主観の集合でしか説明できない**と考えている。
なんとなく、当てはまりませんか？

これが、パラダイムを知る、はじめの一步です。

1-2. パラダイムとは？

★まず、パラダイムについてクーンが提唱するに至った時代背景を整理します。19世紀後半、『科学革命の構造』を書く以前の科学は、以下のような思想の潮流でした。

- ・科学は「検証」という**合理的**プロセスに従い、自然に内在する法則を順々に**同定**していく
- ・その結果、科学は累積的に進歩し、やがては**世界中のあらゆる現象の説明が可能**になる

しかし、クーンは、アリストテレスの『自然学』やニュートンの『プリンキピア』など過去の科学的テキストの読解を通じて、こうした見方に疑問を呈します。

クーンの主張：**「観察」は「理論」の正しさや間違いを判断する基準として機能するはずがない**

「観察」は「理論」から独立しているという前提をとる科学的検証のプロセスについて、観察も理論的のもとで成り立っているので、**純粹無垢な観察は不可能**ではないかという主張です。

分かりやすく言えば、もし、科学に全く知識や理論を持ち合わせていない状態で細菌を観察しても、ただ何かが動いているだけということしか分からないですよね。つまり、**観察という行為は理論のもとにしか成り立たない**。このように、彼は純粹無垢な観察を前提とし、客観的だとされるプロセスには大きな欠点があると論じました。

1-3. パラダイムの原則

まず、パラダイムについて知る前に以下の原則を共有します。

- ◆パラダイムは研究により変わってOK
- ◆1研究につき1パラダイムが適用できる（2つのパラダイムは矛盾したり、相補的でないことが発生したりするため同時に2つの適用は不可能）
- ◆どのパラダイムも「間違い」ではない

どのパラダイムが正解、どのパラダイムが間違っているということを戦わせるためのものではありません。自分が、無意識に正しいと思っていた考え方は、パラダイムの違いによるものなんだなと認識し、研究に活かしてみてください。

1-4. パラダイムの種類

パラダイムの種類、分け方は色々ありますが、ここでは大きく分けた4つをご紹介します。（参考：Patti Lather. 2007. *Getting Lost*。）さらに気になる方は、参考文献リストに入っているパラダイムについて解説されている論文を読んでみてください。

※尚、各パラダイムについて理解するために、Ontology（存在論）/ Epistemology（認識論）/ Methodology（方法論）/ Method（方法）の理解が必要となりますが、簡易的な説明にとどめます。

パラダイムと Ontology, Epistemology, Methodology の関係は以下の次のような図で認識すると分かりやすいです。



(引用 : Kennedy Sialombe, 2020, <https://kennedywritings.com/2020/06/17/research-paradigm-worldview/>)

Ontology : 現実の性質について何を信じるか。検証可能な現実は一つであると考え
のか、それとも社会的に構築された複数の現実が存在すると思うのか。

Epistemology : 何かが真実だということが、どのように分かると考えるのか。

Methodology : 現実や知識の本質に関する仮定、価値観、あるテーマに関する理論と
実践が一体となるところ。

Methods : データを収集するための手段、手法。

※Methodology と Methods の違いは、著者や教授によって説明や見解が異なることもあります。

◆Positivism (実証主義)

研究の理由 : 一般化可能で、行動やシステム、宇宙を支配する法則を発見するため。

Ontology (存在論) : 客観的な現実があり、発見すべき事実がある。

Epistemology (認識論) : ある現実はある確率の範囲内で知ることができ、観察することができる。
現実はある程度、測定、分類できる。

Methodology (方法論) : 中立的、客観的、無価値な知識生成の手段としての科学的方法。

Methods (方法) : 有効性、信頼性、一般化可能性を目的とした、一般的に定量的な方法（混合法、定性法も含む）。

◆Constructivism (構成主義)

研究の理由 : 現実がどのように構築されているかを理解し、記述する。

Ontology (存在論) : 現実には複数の現実／世界、社会的に構築されている。

Epistemology (認識論) : 真理は文脈に依存し、主観的である。価値観は社会生活に不可欠な要素であり、どのグループの価値観も間違っていない。

Methodology (方法論) : 他者が経験し、表現する世界を理解する。解釈的、質的、エスノグラフィック、現象学、象徴的相互作用、自然主義的研究

Methods (方法) : インタビュー、参与観察、フィールドワークの写真、写真、日記、文書の組み合わせ。

◆Critical Theory (批判理論)

研究の理由 : 社会の中にある（あるいはそう考えられる）支配的構造からの解放。誤った意識を明らかにする。

Ontology (存在論) : 社会的現実には歴史的に拘束されており、社会的、政治的、文化的、権力的要因によって絶えず変化している。現実には複数の層があり、目に見える表層的な現実と、観察できない深層的な構造がある

Epistemology (認識論) : 批判的実践を目指す活動家的理解。幻想、力関係、深層構造を明らかにする理論に基づく。

Methodology (方法論) : 量的・質的研究を組み合わせたアクション・リサーチ、参加型研究。

Methods (方法論) : 量的方法と質的方法を研究プロセスに用いる。

◆Post-Structural (ポスト構造主義)

研究の理由 : 二項対立を断ち切る。脱構築。奴隷解放のようにモデルを逆転させるだけではない。

Ontology (存在論) : 現実には複数ある。世界はひとつだけでなく、思考する意識の数だけ多くの世界が存在する。

Epistemology (認識論) : 現実は一瞬であり、はかない一時的なものである。測定可能な単一の現実には存在しないが、コミュニケーション・プロセスの中で理解され、内包される多数の現実

が存在する。構造主義者は、意味のシステムよりも、むしろ、その数学的性質を疑うことによって「システム」を弱体化させるような、表現の特異性を好む。

Methodology (方法論) : 身体 (body) への注目、生きた経験、パフォーマンスティヴィティ/権力。ポストコロニアル、クィア理論、ポストフェミニズム、ポスト人種研究、カルチュラル・スタディーズ。

Methods (方法) : 個人とグループ、言葉と世界を含んだ、批評的で創造的な仕事に爽快感あふれる厳格さを用いる。

1-5. 最初に読むべき資料：代表的な教科書・基本書・古典

◆ 科学革命の構造/ トーマス・クーン著, 中山茂訳, みすず書房, 1971

(配架場所[2F・開架図書] 請求記号[402||KT] 書誌 ID : [4622016672])

★パラダイムを知るなら、まずはこの一冊。

◆ パラダイムとは何か：クーンの科学史革命/ 野家啓一, 講談社学術文庫, 2008

(書誌 ID : [BA86084879])

★『科学革命の構造』の解説本です。原著を読むのが難しいと感じる方は、解説本や入門書から始めてみるのもおすすめです。

2. より深く学習したい方向けに

★書籍で体系的に学ぶこともできますが、さらに詳しく知りたい方には、論文もおすすめです。パラダイムは様々な種類があり、著者によって分類の仕方が異なるので、自分の卒論に生かしたいという場合は、下記の代表的な書籍・論文を読んでみてください。

2-1. 専門書や応用の資料・学術論文等

◆ Patti Lather, *Getting Lost: Feminist Efforts toward a Double(d) Science*, State University of New York Press, 2007

★1-4.で参考にしたパラダイムがここに載っています。パラダイムの分かりやすい図は、p.165 に掲載されています。

◆ Chilisa, B., & Kawulih, B., *Selecting a research approach – Paradigm, methodology and methods*, 2012

(https://www.academia.edu/15804348/Selecting_a_research_approach_Paradigm_methodology_and_methods)

★各パラダイムが構造的に分かりやすく説明されています。

3. まとめ

★ 今回は、パラダイムについて解説しましたが、このパラダイムは、研究において、どのような方法論（methods and methodology）を選択するかということにも影響します。「人と話すのが好きだからインタビュー」「手軽だからアンケート調査」のように調査の方法を選んでいる人も多いのではないのでしょうか。一度、自分の研究にはどのパラダイムを適用するのか、どんな方法で研究をするのかということを考えてみてください。